

## 中食業界内定への道

帝塚山大学 現代生活学部 食物栄養学科 4回生 竹野 勇太

「将来は食品の企業に入社して、商品開発に携わる。」

幼い頃から自分の夢を問われると、必ずと言っていいほどこのフレーズを繰り返していました。

幼い頃から、食べるのが大好きで、3歳の頃から大人と同じ食事をしていました。笑  
家族に僕が考えたオリジナルメニューを食べてもらって美味しいと言ってもらうこと。美味しい料理をお腹いっぱい食べるのが大好きだったこと。とにかく食を通じて人を喜ばすことが大好きでした。そしてそれは今でもまったく変わっていません。

高校生の時に大学で何を学ぶかを考えたときも調理師か管理栄養士かで迷ったくらいで、食という路線からはぶれませんでした。そして、僕が選んだのは管理栄養士でした。食をもっと幅広く勉強したいから。食べるのが大好きだから。将来は商品開発をしたいから。そんなシンプルな気持ちで食のプロである管理栄養士になりたいと想い帝塚山大学に入学しました。

大学に入学してから、現在に至るまで、食について、数々の先生方との講義や、自分自身の飲食店で働いた経験を通じて‘食’に対する考え方が180度変わりました。

日本の現状が少子高齢化・女性の社会進出・単身世帯の増加や生活習慣病者の増加に伴い、ますます食の重要性が問われるようになってきていて、予防医療に代わっていく中で、僕は地域住民が普段利用している、デパ地下・お弁当屋等の健康的なお惣菜・お弁当を提供している中食業界に興味を持つようになりました。また、自分が管理栄養士の資格も生かして地域の人たちの食の健康づくりに関わっていきたいと考えるようになってきていました。

それなら、自分の幼い頃からの夢-商品開発職もあるし、飲食店で得た接客・調理技術も生かせる。それでいて管理栄養士の知識も生かして健康的なお惣菜・お弁当を提案する企業に関わっていく、僕にピッタリな仕事だと感じ、中食業界にターゲットを絞り就職活動を始めました。

就職活動においては人並みに苦労しましたが、なにより憧れの業界で活躍している先輩の方とお話ができたり、面接を通じて思いを伝えることが自分にとっては心地よい刺激であったし、企業研究と称してよく店舗観察に行ったり、味見をすることが楽しみの一つでもありました。

そして、最終的に内定を頂いたのがオリジン東秀という企業です。

オリジン東秀のコンセプトは、‘食を通じて地域住民の健康に貢献する’ことです。

例として、店舗に食事バランスガイドを載せていたり、惣菜・お弁当も管理栄養士が考えたものであったり、宅配食も始めたり、イオンのお惣菜コーナーの一角にもあったりと、地域住民の食生活に無くてはならない企業です。

入社してからは、店長業務を覚えることから始まり、楽しいことばかりではなく、大変な想いもたくさん抱えるとは想いますが、これまで学んだことや、持ち前のガッツを生かして将来は商品開発に就きたい夢からぶれずに日々切磋琢磨していきたいです。